

I 日 時 令和4年10月28日（金） 14時30分～16時00分

II 場 所 市役所本庁舎第一会議室（オンライン併用）

III 出席者 出席者名簿のとおり

1 開会

2 挨拶

市長

昨年の連絡会議では、令和5年度から始まる新しい市の基本計画、またそれに関連した取り組みについて皆さんと意見交換をさせていただきました。市民の学び直しや、パラスポーツの推進などに関して多くの意見を頂きました。こうした意見を反映させる形で10月に基本計画を策定・公表しております。目指すべき都市像「みんなが輝く都市と自然が織りなす千葉市」についても、まちの歴史を大事にすべきというご意見を頂き、漢字にした経緯もごぞいます。策定に当たりお力添えいただいたことに感謝いたします。計画の推進に当たりましても引き続きご協力をお願いしたいと思います。

千葉市では令和3年に市制施行100周年を迎え、令和4年は政令指定都市に移行して30周年を迎える節目の年になっています。また、令和8年、2026年は「千葉開府900年」という節目の年を迎えます。

その節目の年へ向けて、基本計画を土台としながら、千葉市のまちの歩みを振り返りつつ、未来に向けたまちづくり、文化面でのまちづくり・人づくりを進めていきたいと、本日の議題を「千葉開府900年に向けて」としております。千葉開府800年、850年当時の取組みにおいても、行政だけではなく市内の関係者の皆様とともに、例えば850年では親子三代夏祭りやサンスポマリンマラソンなど今につながる取組みが行われています。

本日は、千葉開府900年に向けたこれからの市の取り組みや土台となる考え方についてご説明した後に、そちらについてのご意見や関連して考えられる各大学等との取組みについてご意見を頂きたいと思っております。開府900年に向けて市全体を盛り上げていきたいと、皆様のお力を貸していただきたいと思います。

3 出席者紹介

4 議題1 令和3年度の大学連絡会議の振り返りについて

(1) 総合政策部長 （資料「令和3年度の大学連絡会議の振り返りについて」に基づき説明）

市長

みなさま、さまざまな取組みを進めて頂きありがとうございます。おかげさまで、大学、短期大学、学生、職員の方などさまざまな立場の方達とまちづくりを進めることができていると思っております。全国的に取り上げられる取組みもあり、千葉市からそのような取組みを発信できていることに感謝しております。

パラスポーツについては、急速に千葉市内においても認知度があがっており、実際に体験した方も増えてきております。みなさまに活動していただいているおかげと感じておりますので、感謝するとともに、引き続き、取組みを進めていただければと思います。ありがとうございます。

## 議題2 千葉開府900年に向けて

(1) 市長発表 (資料「千葉開府900年に向けて」に基づき説明)

(2) 意見交換

植草学園大学・植草  
学園短期大学

共生社会の実現を学園の基盤に置き、インクルーシブに学べる大学として、千葉市の基本計画においては、戦略的視点の3にある「世界とつながる多様性を活かしたインクルーシブなまちづくり」に、一番貢献できるかと思えます。

開府900年については、千葉市の立地を活かした新たな魅力を創出してはいかかかと考えます。「写真が語る千葉市の100年」というものを見ると、豊かな歴史・内容が千葉市に含まれていると感じましたので、その中から、千葉市の目玉になるものを抽出し、「歴史に根ざしたわかりやすいシンボルづくり」をすることが必要と思えます。

さきほどお話しがありました郷土博物館のリニューアルに関連して、市内の様々な施設の展示について、見直しが必要だろうと思えます。動物公園や花の美術館など千葉市の施設において、共通のテーマを設定した上での展示を行ってみてはいかかかと考えます。

また、施設の中だけではなく、千葉市の中心であったであろう千葉神社の周辺をもう少し元のにぎやかな姿に戻せるように整備することや、動物公園、ポートタワーなど、既存の施設の周辺をもう少し整備することが必要と考えます。

教職員学生の参加という点について、本学は加曽利貝塚や御成街道の近くに立地し、今まで学生にも積極的に見てほしいと言っていたが、なかなか大学で取り上げることが出来ませんでした。開府900年を契機に、そのようなことが得意な先生を呼び、授業を作ってもらおうという想定をしています。積極的に学生にもアピールをし、千葉市と連携を取っていきたいと考えています。

最後に、若い世代のアイデアの取入れについては、オンラインを活用した意見表明の場を設けることが良いのではないかと考えています。本学は縄文オペラという、加曽利貝塚を用いた大学生と小学生のジョイントの活動を行ってきました。開府900年に向けても周辺の小学生たちと大学生と一緒に何かジョイントし活動が出来ないかを考えていきたいです。

神田外語大学

市長が描いている千葉市の将来を実現させることができるのは、今の子ども達だと思っています。これだけの大学が集まっているユニークな教育都市という環境を最大限活かし、教育で誇れるまちにする。そのためにどうするか、大学の経営者や教職員達が関与できたらと思っています。

その一つのアイデアは、例えば金融教育について、産学協働として千葉銀行などの金融機関とカリキュラムを作り、教育委員会と提携して、小中高にカリキュラムに基づいた出前授業をする。プログラミング教育についても、さまざまなエキスパートがいる、さまざまな産業が集積している千葉市が一体になって初等中等教育の支援をすることができれば、日本の教育都市としてのモデルになるのではないかと考えています。

市長の力でこのような仕組みを作って、千葉市をユニークな教育都市とすることが私の提案です。

## 敬愛大学

「千葉開府900年に向けて」、2つの意見を述べさせていただきます。

1点目は、本学では、2016年にJR稲毛駅前に敬愛大学生涯学習センターを開設し、リカレント教育や資格取得の講座、学びを通して市民の皆様の喜びとなるような講座を年間400講座以上提供しております。この生涯学習センターの講座について、千葉開府900年記念事業と位置付けることで、千葉市と相談しながら、特別講座を開設することも検討していきたいと思っております。

2点目は、大学教職員・学生の積極的な参加についてです。市長のご発言のとおり、若い世代のアイデアを取り入れることは非常に大切なことであるし、そのような機会を本学の学生や教職員に頂ければ大変ありがたく思います。しかし、昨今は希望者を呼びかけて広く意見を聴取することは難しいので、少人数で活発に意見交換できる環境をいかに増やしていくかという仕掛けが重要ではないかと考えています。例えば各区で開催されている区民対話会のような、区単位で数多くの市民、在住在勤の若い世代が活発に意見を出し合える場をオンラインも含めて積極的に設けるというのはいかがでしょうか。また、大学の授業に市の職員が参加し、直接学生たちの意見を聞いていただくような企画もよいと思っております。

## 淑徳大学

「千葉開府900年」は、都市アイデンティティの醸成・普及啓発をさらに進める1つの到達点でもあり、新たな出発点にもなるかと思っています。都市アイデンティティ政策は市民をはじめ市内に在学・在勤する学生や会社員の皆さんが千葉市の魅力を自ら誇りとすることで地域への愛着となっていくと考えます。そうしたまちづくりの当事者として参画していく機会、プロセスを重視していく必要があると思っております。

その中では大学の教職員や学生の積極的な参加として本学としても主体的にかかわっていききたいと思っておりますし、コミュニティ政策学部や来年度から開設する地域創生学部において、教育研究活動の一環としても関わっていききたいと考えています。

具体的な取組みとしては、「千葉開府900年」という歴史と文化を感じられる空間を作っていくことで、亥鼻周辺で鎌倉時代の街並みを感じられるプロジェクションマッピング等のデジタルアート技術を活用して、歴史と文化を感じることのできる機会を設けたり、吾妻町や蓮池など旧町名の復活などの取組みもよいと考えています。

若い世代のアイデアの取入れについては、本学も運営にかかわっている「千葉市こども・若者市役所」を通して若い学生のアイデアを取り入れていくことが大切かと思っております。

ぜひ、本学の職員、学生が、積極的に関わっていききたいと考えてます。

## 千葉大学

「千葉開府900年の方向性や具体的な取組み」に関する意見について、本学は千葉一族に関する公開講座を市民向けに提供してきました。その中で、一族によるまちづくりや、節目の年にもまちの発展状況についても考えてきましたので、その流れの中で「千葉開府900年」という非常に大きな区切りの年には、千葉というまちの現在の到達点と未完の部分を確認にして、今後のまちの発展に明るい具体的な見通しが持てるといいのではないかと考えています。

また、「大学、教職員、学生の積極的な参加」に関する意見、「若い世代のアイデアの取入れ」については、学部の必修科目の1つとして地域科目が設定されてお

り、必ず一定数の学生の参加が見込まれます。また、大学公認のボランティア団体や地域活動をしている研究会・サークルもありますので、必ず一定程度の学生の参加、それを担当している教員の参加があります。このように学生と確実に触れ合える環境を活かして、若い世代の色々な考え方をざっくばらんに聞けるような体制をこれからも維持していきたいと思っています。学生はSNSなどを活用するので、アイデアを取り入れる際には学生にとってハードルの低い方向で考える必要があるのではないかと考えています。

千葉経済大学・千葉  
経済大学短期大学部

「千葉開府900年について」は、2つの柱があると思います。

1つ目は、まずは千葉市の足元を知ること。2つ目は、千葉市の未来を見据えることだと思います。

足元を知るということは、千葉市に途中から住まわれた方や、千葉市を訪れた方がたくさんいるので、千葉市がどのようなところなのかを知らしめるような連続講座やシンポジウム等を企画するということが必要だと思っています。さきほどから、会議室の私の目の前に、航空写真がありますが、例えば、そこに千葉市の足元が見えてくるような千葉の歴史である亥鼻城や加曾利貝塚、千葉寺、千葉神社、千葉氏の墓標がある大日寺の位置にシールを貼ることによって、千葉開府900年の歴史を見ることが出来ると思いますので、次、こちらに来る時には、実施されていることを願っています。また、大日寺の住職が大正大学の前学長だったこともあり、千葉氏を深く知っている方に話をさせていただき企画をしていただきたい。話を聞いた方が周りに伝えることによって千葉市の古い歴史が見えてくると思います。

未来を見据えてに関しては、これからの大学として、千葉市で学んだ若者達が、それぞれの大学で教育の成果を出していくことで、千葉市はただ大学の数が多いということだけでなく、千葉市ではこのような教育を行っていると言えるようにしたいと思っています。

千葉県立保健医療大  
学

「千葉開府900年」は、今後50年に向かって遭遇する重大な問題をどのようにして克服するかを考える機会として非常に重要と考えています。人口減少の中で、共生社会を活かしながらどうやって社会を保つかというモデルを提示していくことが一番重要ではないか、地域を強靱化するために自治会なども含めてどう強化していくかという点が重要だと思います。

本学の学生は、1年生時より地域に根付くべきだという考えのもと、漁業協同組合に見学に行ったり、自治会に行ったり地域の基盤になるようなところの学習を4年生まで通しながら、学科の専門性を超えてみんながチームとして働けることを重要な教育課題としています。その一環として、教員と学生が一体となり、ほい大健康プログラムというものを実施しており、URなどの高齢化した大規模団地などにおいて、未病改善や健康福祉などを目指して健康プログラムを展開しています。若者が地域に行って実情を知る、また、学生が赴くことによって地域住民の活性化などにつながると思います。

ただ、限界に感じているものは、本学は、保健医療関係の学生に限られるので、他の学部の方や他の職種の方にも一緒に地域に入ってください活性化が出来るとう

いと考えています。

## 放送大学

放送大学の特性として、全国に500の学習センターがあり学生がいます。「千葉開府900年」のアピールについて、千葉市だけではなく、本学のデバイスを使うと外に向けて「千葉開府900年」の意味、意義、背景といったものを伝えられるのではないかと思います。本学では正規の授業以外にも特別講座や特別講義などがあるため、例えば、そこで2回シリーズ、3回シリーズとして「千葉開府900年」を取り上げて、全国の学生に見てもらおうということが出来ると考えています。

本学の特性として、人的資源を使うということは難しいが、2024年に放送大学博物館を、当面は資料館という名前で開館する予定です。そこで放送教育に関する事物や通信制大学の在り方についての展示を行います。その中でこの本拠地がある千葉市についての特別展などを一番初めに展開しようかと考えています。事物を集めることは、千葉市に立地する大学の皆さんや行政の方にもご協力いただきたいと考えています。

若い世代の意見については、放送大学の学生は平均年齢40代後半ですが、最近は若者も増えてきています。その方たちは実際にキャンパスに来るよりもライブウェブ事業を好みますので、ライブ映像のゼミなどでアイデアを出していただくことも企画できるのではないかと考えています。

## 千葉明德短期大学

保育者養成の単科の学校ということで子どもに絡んだこと、子育てをしている方々に関連するようなところ、また、現場の保育者の保育の質を向上していくような事柄であると何か絡んでいけることがあるのではないかと感じています。保育所向けの会や子育て支援に関する場所を通して、何か協力が出来れば積極的に参加したいと思っています。

学生に関しては、SNSを利用して、子どもと一緒に楽しめるような踊りを考えるなど、子ども、子育てに関するテーマが入ってくれば、私たちの出番だと考えています。

## 帝京平成大学

「千葉開府900年」という50年、100年に一度訪れる節目をチャンスととらえて千葉から始まった大学として、広めていきたいと思っています。2026年の翌年にはありますが、2027年にちはら台キャンパスを全面改築する予定ですので、このような機会もとらえながら地域に開かれた情報発信を計画しています。

若い世代のアイデアの取入れに関して、1つの案としては、1～4年生まで行っているセミナーを通して「千葉開府900年」に関するアイデアの募集であったり、U30（アンダーサーティ）というような名前の元、プロジェクトを実施したりすると、本学の学生達もモチベーションが上がっていろいろ考えて取り組めるのではないかと考えています。本学の学生は、パラスポーツなどの行事にも数十人単位で活動していますし、学生消防団にも数十人参加しているので、このような取り組みにも声をかければ参加するのではないかと考えています。

個人的にはさきほどの千葉開府900年ダンスは興味がありまして、ちばダンなどと名付けて学長先生が順番に踊っていくなどしてバズったら面白いと思います。

## 千葉工業大学

今回の案件については「インナーブランディング」と捉えて回答しました。

こういった行事について、自分事とすること大切であると考えます。ステークホルダー全体の自己効力感をどのように醸成するか考えていかなければならないと思います。先ほど市長のお話で基本計画における目指すべき姿という表現がありましたが、インナーブランディングの基本は、あるべき姿や目指すべき姿の前に、ステークホルダーのありたい姿がなんであるかということをしっかり共有することが大切だと思っています。そこを市の方で共有していただくことが重要と考えています。

若い世代のアイデアの取入れは、表層的なアイデアを取り入れることはいくらでもできると思いますが、そのアイデアを受け手である市側の担当者や他のステークホルダーの方がどこまで再現するかという覚悟の問題だと思っています。また、大学教育の立場からは、単純に表層的なアイデアを考えるのではなく、千葉市を探索させて、探索型課題解決のアプローチとしてしっかり学ぶことが出来れば非常に積極的に実施できるかと考えています。

私の専門がデザインであり、行政側においてもデザイン思考の取組みなどもございますので、そのあたりの情報交換もできたら何かにつながるのではないかと思います。

## 東都大学

これから千葉に根差した教育を作り上げていくことが本学としての「千葉開府900年」の方向性かと感じました。本学は、深谷、千葉、沼津にキャンパスがあります。それぞれの地域における特徴、アイデンティティを学生間で共有させることで、学生がより地域というものを理解するきっかけになればと思います。

大学教職員・学生の積極的な参加について、医療系の大学として、子育て支援の観点から述べさせていただければ、現在の少子高齢化への対応として、子育ての環境を整え、子どもの増加を促す必要があると考えています。そのための産後ケアや、若い世代が積極的に子育てができる環境を作るために、大学の機能や若い世代のアイデアの取入れに向けてご協力できるのではないかと考えています。

## 千葉敬愛短期大学

本学は、2年後に千葉市稲毛区に移転する予定です。私から申し上げたいことは、さきほど佐久間学長からもご意見ありましたが、まずは「千葉市をよく知ってもらう」、次に「千葉市を好きになってもらう」、そして「千葉市をよくしていく」、というステップを全体で考えていきたいと思っています。千葉市の小・中学生でも自分の住所を知らない子どもがいる、また、大学生でも加曽利貝塚が特別史跡となっていることも知らない、まずは、千葉市のことをよく知ってもらいたい。

よく知ってもらうには、プレーパークなど子どもの遊び場を豊かにしてほしい。そうすれば、保育系の短期大学は、そこに参画できる、応援できると思います。

「千葉開府900年」を契機に、千葉の子ども達が、まちかどで元気いっぱいになるというメッセージを発信してほしいと思います。

多岐にわたるご意見を頂きましてありがとうございます。

足元の歴史やまちの成り立ちについて、市民が深く学べる機会をこの「千葉開府900年」を契機に創っていくべきだというご意見を、多くの方から頂いたと思います。

若い世代へのアプローチとしては、自己肯定感を持ち、自分の考えを周りの方に広げて、全体としての解決策を見つけるというプロセスが大切でないかなと感じました。また、参加したい時に参加できるようにするというのも若い世代のアプローチとして重要な点ではないかと感じました。

また、まちとしてリニューアルを図っていくという時期が来ているのではないかと、ハードもそうですが、住んでいる方が地域でどんな活動をしているのかを見て、次の30年、50年の中で地域活動をどう進めていくのか、改善していくのか、また人口減少が進む中、今までのやり方では個人の負担が重くなってしまおうという事態も出てくるので、いわゆる再生の様な、今ある資源を活かしながら次の30年間でどのような地域活動が最適なのかということ踏まえて、これまでの仕事の仕方や活動の仕方を含めてリニューアルすることが必要だと感じました。

どこに着眼するかによって具体的な活動内容は変わりますが、「千葉開府900年」を1つの到達点そして再スタートの時期と定めてハードもソフト活動自体もどのように活用していくのか考えるタイミングに来ているのではないかという指摘を頂戴したと理解しています。

私としても市民の方とお話をさせていただく機会を大切にしており、市長と語ろう会を対面やオンラインでも実施しています。その中で、学生の方、若い方からも直接建設的な意見を頂き、千葉市に不足していたことや評価して頂けること、また今後必要となっていくことについても非常に学ぶところがありましたので、私達が大学等にお伺いして、テーマを決めて意見交換をする機会を与えていただくことも考えさせていただけないかと思ひます。そうすることで「千葉開府900年」の際に開催する講座やシンポジウムの中でも、お互いに参考にさせていただくことがあれば、共有するなどして、今の学生の目線で見ても今までどう見えてきたのか、これからどうしていきたいのかなど個別に伺ったり、意見交換をさせていただければと思ひます。「千葉開府900年」は歴史を学ぶだけではなく、未来をどうするか考える機会と考えておりますが、周知が相当必要だと考えています。いろいろな視点で学生の皆様の意見を聞くような機会を創りたいと思ひますので、皆様にもご協力していただきたいと思ひます。

本日、皆様から「千葉開府900年の方向性や具体的な取組み」「大学、教職員、学生の皆様の積極的な参加」「若い世代のアイデアの取入れ」について、様々なご意見をいただきました。「千葉開府900年」に向けて、ただ千葉氏の歴史を学ぶにとどまらず将来に向けて今後につながるような取組みを始めるタイミングということをつかんでいただくようなPRや周知の仕方を工夫していかなければならないと思ひます。千葉氏の歴史とこれからの将来のことをどう結び付けるというのはなかなか難しいという意見をいただいておりますが、私達の考えをしっかりと市民に伝えていかなければいけないと感じました。

各大学が持つ知見を「千葉開府900年」に向けてご提供いただけるというお話と、

若い世代の皆さんとお話しさせていただける機会を作っていただける、というお話を伺いましたので、ぜひ、「千葉開府900年」に関する講座やシンポジウム、授業の実施のご検討をいただくとともに、例えば、その授業の中で学生の皆様がアイデアを検討したり、市の職員がお伺いして、学内の団体やサークル、授業などを通じて学生の皆様と意見交換するような機会を作っていただきながら、学生の皆様の意見をいただくようなことできると良いのかなと考えております。

また、来年度は「千葉開府900年」に向けた周知をすすめる段階になると思います。教職員や学生、大学公認のボランティア団体やサークルへの周知・呼びかけについてもご協力をどうぞお願いいたします。

千葉敬愛短期大学

私から追加で意見です。

「千葉開府900年」のキーワードは大切だとは思いますが、これを前面に出しすぎるとそれより前の時代の加曾利貝塚や大賀ハスが忘れられてしまうおそれがあります。その前の時代からのつながりも意識した発信をした方がよりよいと考えます。

また、「千葉開府900年」は、地方の豪族達が一旗揚げのきっかけとなったものと考えます。例えば「始動力」のような新しいキーワードを創るとともに、新しい何かを始める、ベンチャービジネスも歓迎するというメッセージを含めた発信となればよりよいと考えます。

市長

ベンチャー起業精神は非常に大事だと思っています。会社を興すことが目的ではなく、今世の中に何が必要なのかを見出して解決していけるようなマインドを持っていただきたい。そういう考え方やキーワードをどう選定して伝えていくか、人材教育を行っていくのかということをしっかり練り上げていかなければならないと思いました。

鎌倉時代を起点とすると、以前の歴史が忘れられてしまうリスクがあるというご指摘も頂き、ありがとうございます。加曾利貝塚については国宝級の価値のあるものであり、縄文時代のものでありながら、現代のSDGsに通じるものでもありますので、まちの成り立ちについて、広い時間的スパンで見ていただくような工夫をしていかなければならないと思います。